

八女市議会議長
角田恵一 様

令和2年8月25日
八女市議会議員 高橋信広

セミナー受講報告書

日 時；令和2年8月24日(月) 10:00～12:30 14:00～16:30

会 場；リファレンス駅東ビル（福岡市博多区）

参加者；5名〈内八女市関係者：田中議員、中島事務局長(公立八女総合病院)〉

講 師；城西大学経営学部 教授 伊関友伸 氏

テーマ①人口減少・地域消滅時代の自治体病院

—どうすれば医師・看護師の勤務する地域になるか—

テーマ②あなたの地域の自治体病院の経営を診断する2020年版

添付資料；講座のチラシ

1. 講演概要

(1) テーマ①：人口減少・地域消滅時代の自治体病院

—どうすれば医師・看護師の勤務する地域になるか—

- ①冒頭には、コロナ患者を受け入れることは自治体病院の義務であり、これからの自治体病院の重要な役割として、大凡10年単位で発生する感染症対策が重要になってくる。
- ②本格的な少子高齢化社会を迎えているが、更なる絶対的な医療・介護資源の不足が予測され、そのための財源不足も深刻になる。
- ③国の医師数の抑制政策、医療の高度・専門化、労働環境の悪化、女性医師の増加など様々な医師不足の要因があげられるが、医師が集まる病院と集まらない病院の2極化が進んでいる。中でも、医療の高度・専門化に対応した500床以上をもつ都市の高度急性期病院に集中する傾向が進んでいる。
- ④地方においては、医師の絶対数不足とともに医師の高齢化も大きな課題であり、地域によっては医療崩壊が危惧される。
- ⑤大学医局が医師を派遣するためには、病院の教育力が充実していることが重要であり、一つの手法として教育認定施設を取得することは大事である。公立八女総合病院は、教育関連病院ではあるが教育病院の認定は取得していない現状にある。
- ⑥少子高齢化による一層の看護師不足が深刻化するため、運営ができなくなる病院も予測され、看護師確保の対策は重要な課題の一つである。

- ⑦地域の産業としての医療・福祉施設の存在は、経済的波及効果の指数も高く、産業振興あるいは雇用拡大の視点で重要な分野である。八女公立総合病院においても、500人以上の雇用と関連業種に寄与している。
- ⑧医師が勤務したくなる地域にするためには、(1) 行う医療を明確にする (2) 過酷過ぎない勤務 (3) 医療技術を学べ、自己が成長できる (4) 専門医の資格が取れる施設 (5) 適切な報酬 (6) 住民の感謝、適切な受診行動など、どうすれば医師が勤務する地域になるかの持論が説かれた。

(2) テーマ②：あなたの地域の自治体病院の経営を診断する2020年版

- ①自治体病院の経営評価は、財務状況だけでなく医師数や診療科など医療提供体制を含めた運営状況についての総合的な評価が重要である。
- ②経営評価のデータで最も重要なものは、総務省が公表している「地方公営企業年鑑」であり、分析や比較検討ができる活用すべき資料である。財務使用だけでなく、病床利用率や平均入院単価、職員給与等経営指標も記載されている。
- ③2020年度不採算地区の中核的公立病院に対する特別交付税措置が創設され、八女公立総合病院は対象となると考えられる。
- ④経営評価において最も重要な項目は、「現金及び預金」であり、手持ち現金がなければ安定的経営はできない。一般論として、100床当たり10億円以上が一つの目安となる。公立八女総合病院は40億円以上の手持ち現金を保有しており、現時点では安全経営と評価できる。
- ⑤病床利用率の目安としては85%以上を確保することが必要で、平均在院日数は、制度上14日未満というのがベターである。
- ⑥1日平均入院患者数・外来患者数は、重要な経営指標であるが、入院患者については、平均入院単価と病床利用率が経営を大きく左右する。八女公立総合病院は、平均入院単価が現状5万円未満と低く、どこまで上げられるかが収益面での課題である。

2.公立八女総合病院の将来を見据えた所感

- ①公立八女総合病院について、総合的には水準以上の評価をコメントいただいたものの、平成25年度から8期連続の赤字が続いている状況から、抜本的な経営強化が喫緊の課題であり、経営分析と具対策を求めたい。
- ②公立八女総合病院の将来については、新型コロナウイルスを含めた感染症対策の観点から、自治体病院の必要性を市民に理解を求めることが重要と考える。
- ③公立八女総合病院企業団における「病院機能再整備検討委員会」の答申については殆ど前に進んでいない。
委員会以外の有識者として、講師の伊関友伸氏にアドバイザーとして協力いただくと突破口になるのではないかと考える。